

28-96

特67-  
869

28  
4  
752



木曾森林問答

065201-000-0

特67-869

木曾森林問答

松野 礪

山本 清十 / 著

M14.5

CCE-0025



弁言

凡ソ物ノ始終ハ季節ト時期ニ適スルヲ要トス苟モ季節ト  
時期ヲ失シ若手ノ順序ヲ誤レハ始終ヲ整理シカタク卓識  
ニ非ルヨリハ能ク季節ト時期ノ熟シ來ルヲ知ル殆ント希  
矣今ヤ百廢興起シ季節ト時期ニ會シ收利シ道立サルハ十  
シ然レモ人々目下ノ利ニ走リ未タ遠大ノ事業ヲ謀ル者ア  
ラス吾友松野氏ハ夙ニ山林經濟ニ志シ會テ獨國ニ航シ山  
林學ヲ究メ歸國後其局ニ奉仕シ爾來後進者ヲ導キ時々其  
學ヲ講ス同志ニ山本氏アリ氏亦常ニ山林ノ實地ニ就テ研  
究スル茲ニ年アリ曩キニ朝命ヲ奉シ專ラ木曾山林ノ事ヲ  
調査ス抑蘇山ノ森林ニ於ル我國ノ蜀山ニシテ連亘數百里  
樹木鬱鬱良材ヲ出スハ論ヲ竣タス然レモ舊慣ノ久キ在昔

ノ山林ニ眩シ得失如何ヲ問サル者ノ如シ其伐木ノ季節ニ  
適セサルヨリ大木ハ朽チ其播種ノ法ナカリシカハ皆野生  
ニシテ時期ニ合サルヨリ發生ヲ害スルニ至ルニ氏茲ニ見  
アリ頃ヨロ木曾森林問答ヲ著シ每秋議論剴切伐木季節ニ  
適シ播種時期ニ會シ世ニ裨益スル一部ノ山林經ニシテ收  
利ノ道ニ於テ亦餘裕アリト謂ヘシ我邦未タ山林ノ事ヲ言  
ハズニ氏ヲ以テ開山縮矢トナスモ過言ニ非ルナリ嘗ニ即  
今季節ト時期ヲ得ルノミナラス百年ノ后モ亦然リ感慨ノ  
餘聊燕言ヲ矢チ弁言トス

明治十四年春三月

湖上 加藤秋爽

木曾森林問答序

森林樹木ノ現在スルモノハ現世ナリ現世即過去未來ヲ生  
ス山林家タルモノハ宜ク過去ヲ推究シ未來ヲ慮リ事ニ施  
スヲ以テ實務トナスヘシ然ハ則山林家ノ實務ハ形ナキモ  
ノ、如シ此形ナキノ務ニ從事シ其效驗ヲ百年ノ後ニ待ソ  
トス豈容易ノ業ナランヤ余木曾ニ赴任スルニ當リ松野山  
林學士ニ就キ其一斑ヲ聞シコトヲ得テコレヲ書ニ著ス題  
シテ木曾森林問答ト云フ苟モ山林ニ志アル人一讀セハ亦  
裨益スル所アラソ

明治十三年一月

山本清十 識

ノ山林ニ眩シ得失如何ヲ問サレ者ノ如シ其伐木ノ季節ニ  
適セサルニヨリ大木ハ朽チ其播種ノ法ナカリシカハ皆野生  
ニシテ時期ニ合サルヨリ發生ヲ害スルニ至ルニ氏茲ニ見  
アリ頃ヨロ木曾森林問答ヲ著シ毎秋議論剴切伐木季節ニ  
適シ播種時期ニ會シ世ニ裨益スル一部ノ山林經ニシテ收  
利ノ道ニ於テ亦餘裕アリト謂ヘシ我邦未タ山林ノ事ヲ言  
ハスニ氏ヲ以テ開山矯矢トナスモ過言ニ非ルナリ嘗ニ即  
今季節ト時期ヲ得ルノミナラス百年ノ后モ亦然リ感慨ノ  
餘聊燕言ヲ矢テ弁言トス

明治十四年春三月

湖上 加藤秋爽

木曾森林問答序

森林樹木ノ現在スルモノハ現世ナリ現世即過去未來ヲ生  
ス山林家タルモノハ宜ク過去ヲ推究シ未來ヲ慮リ事ニ施  
スヲ以テ實務トナスヘシ然ハ則山林家ノ實務ハ形ナキモ  
ノ、如シ此形ナキノ務ニ從事シ其效驗ヲ百年ノ後ニ待ソ  
トス豈容易ノ業ナランヤ余木曾ニ赴任スルニ當リ松野山  
林學士ニ就キ其一斑ヲ聞シコトヲ得テコレヲ書ニ著ス題  
シテ木曾森林問答ト云フ苟モ山林ニ志アル人一讀セハ亦  
裨益スル所アラソ

明治十三年一月

山本清十 識

[Faint, illegible text in a large rectangular frame]

木曾森林問答

山本清十郎問答

問テ曰ク、木曾森林ハ、本邦中森林ノ巨擘ニシテ、良材アルノ  
 稱ヲ得タリ、然レドモ從來人爲ノ力ヲ以テ樹木ヲ増殖スル  
 コトナク、唯野生ニ安シ、只斫伐ヲ事トスル習慣ナリ、此斫伐  
 ニ従事スルモノ、亦増殖ノ所見アリト雖、其所見タルヤ、凡伐  
 木跡ノ地ハ、三年ヲ經テ「タラ」ヲ生シ、第一三年ヨシテ灌木ヲ  
 生シ、第二三年ヨシテ檜苗ヲ生スト云ヘリ、第三此檜苗ヲ小  
 檜會ト云フ、成長スルニ從ヒ、灌木消滅シテ完業ノ檜林トナ  
 ルト云々、以上舊尾州藩山林役人木客等ノ深ク信用スル所  
 ノ説タリ、尾州藩ニ於テモ、木種ノ盡ニコトヲ慮リ、屢山林役  
 人ニ命シ、注意スヘキノ旨ヲ達シタリ、今情往事ヲ推考シ、將

來ノ如何ヲ推究スルニ、天然野生ニ任スヘカラス、野生ニ任  
 ストキハ、終ニ林相ノ衰狀ヲ呈シ、最良ノ檜林ヲシテ、椴、明檜  
 ノ林ニ變セシコト、疑ヲ容レサル所ナリ高論承リタシ、  
 答テ曰ク、前條ノ所見ハ、何レモ適當セサルナリ、如何トナレ  
 ハ、三年ニシテ「タラ」ヲ生スル土地ナレハ、其前年ノ檜實、必發  
 生スヘキ道理ナリ、然ルニ發生セサルハ、伐採後山掃除行届  
 カサルナリ、試ミニ思フヘシ、種子ノ萌芽力ハ、限アルモノニ  
 シテ、長ク生育力ヲ持ツモノト雖、三四年ヲ經テ發生スルモ  
 ノハアラサルナリ、況檜實ノ如キハ、概一ケ年ニシテ萌芽力  
 ヲ失フモノナリ、然レハ六年ニシテ始テ發生スル處ノ實ハ、  
 伐木ノ前年撒布シタル樹實ニアラス、蓋他方ヨリ飛散シ來  
 ルモノナリ、故ニ伐木ヲ行フ者ハ、第一母樹ヲ存スルコトヲ

要用トスヘシ、母樹ハ、無病健全ニシテ、壯木曾森林ニ於テ、檜  
 ヲ澤山ニスル目的ハ、素ヨリ至當ノコトナリ、檜ヲ澤山ニシ  
 テ、椴、明檜ヲ衰ヘシメント欲スレハ、伐木ノ際、眼前ノ収益ニ  
 拘泥セヌシテ、椴、明檜ヲ伐除スルコト、肝要ナリ、而シテ檜ノ母  
 樹ヲ存スルトキハ、其目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ、  
 問曰ク示論ノ如シ、然レトモ只母樹ヲ存スルノミニテ、檜ノ  
 増殖ヲ期スルハ、迂ナルニ似タリ、栽植洗伐ヲ施シテハ、如何  
 答テ曰ク、洗伐ハ、素ヨリ主木生育ノ度ニヨリ期ヲ定メテ施  
 サレレハ、良材トスルコト能ハス、造林ハ、樹木同經同問ニ生  
 ス、然レトモ栽植ヲ施スハ、官林ノ中數町歩ノ荒蕪地、或ハ天  
 然生ノナキ所ニ於テ施スハ、可ナリ、尤前條ノ如ク天然生ヲ  
 待テ、疎密アルトキハ、密ハ、コレヲ疎ニシ、疎ハ、植エ續キヲナ

スヘシ、元來栽植ハ、天然ヨリ劣ルモノニシテ止ムヲ得サル  
 ニ出ツルモノナリ、森林地ニアラサルモノ  
 問曰ク、木曾森林ハ、檢スルニ、檜ノ良樹ハ、山ノ半腹ヨリ峯頭  
 ニ向ヒテ生長シ、椴、明檜ハ、溪間ニ向ヒテ榮フ、半腹ヨリ下ニ  
 檜ヲ栽植シテハ、如何、  
 答テ曰ク、木曾ノ森林ハ、今ヨリ人カヲ以テ一變セサルヲ得  
 サルナリ、モシ人カヲ以テ生育セシムルトキハ、木種モ亦一  
 層ノ良質ヲ得セシ、現在椴、明檜等ニ適當ノ地ヲ占メラレ、檜  
 ハ、其所ヲ失フナリ、試ニニ看ヨ、今日伐木スル所ノ峯頭ノ檜  
 ハ、其材品半腹以下ノモノニ劣レルヲ以テ証スヘシ、  
 問曰ク、高輪ノ如ク半腹以下ニ檜ヲ増殖シ、林位ヲ改良スル  
 ハ、余カ所見ト同シ、而シテ其事業ニ着手スルハ、官林中荒蕪

無樹ノ地、或雜木蔓生ノ所ヲ伐除シ、地ヲ耕シ、全部ヲ耕スニ  
 本ヲ植ヘキタケ、檜實ヲ轉キ、生育ノ道ヲ開キ、又樹木空疎ノ  
 間ニ、苗植シテハ、如何、

答テ曰ク、其事業ニ着手セシト欲セハ、一、メートル毎ニ、直径  
 一尺深サ凡一尺位ニ、土ヲ堀リ細ニ土塊ヲ碎キ、下種スヘシ、  
 最此法ヲ施スニハ、下種一二ケ月前、土ヲ耕スヲヨシトス、一  
 ケ月ヨリモ早  
 キ方尙ヨロシ  
 但下種ノ量ハ、樹實一撮ヲ度トス、樹實種ニヨリテ是故ニ  
 此法ヲ以テ播種スル樹實ハ、最上ニ限ラス、又此法ハ、巖石  
 ノ箇所ニ施シテ、大ニ益アリ、コレヲ獨乙國ニテ「リ」ヨツフ  
 エルサ「ト」ト云フ、  
 又曰ク、樹木空疎ノ間ニ苗植ヲ施スモ可ナリ、然レトモ利害

得失ヲ辨スルコト肝要ナリ、

問曰ク、利害得失トハ、如何、

答テ曰ク、其空疎ノ地、大ナルカ又ハ數少所ニ涉リ、一ノ苗圃ヲ設ケ、得失償ヒ得ルカ、將路傍行人ヲシテ、林相ノ衰態ヲ憂ヘシムル箇所等ハ、植エ續キヲナシ、行人ノ爲メ林相ヲ裝飾シ或ハ空疎ノ箇所アルカ爲ニ、其現在ノ立木生育ニ害アルルコトヲ見認ムルトキハ、植エ續キヲナサ、ルヲ得サル等ノ類ナリ、餘ハ爰ニ畧ス、

問曰ク、其樹子採拾ノ法ハ、如何、

答テ曰ク、元來樹實ハ、自然ニ熟シテ、自然ニ落テ、自然ニ發生スルモノト、飛禽ノ糞ニユリテ思ヒモユヲヌ所ニ樹種發生スルトナリ、

問曰ク、樹種採拾ノ季ハ、如何、

答テ曰ク、各樹其性質ニヨリ其期ヲ異ニスルモノナレハ、成熟ノ時ニ就テ之ヲ三等ニ區別採拾スヘシ、譬ハ九月十月ノ交、熟シ、其始ト終ニ落ツルモノハ中期ノ樹子ニ劣ルナリ、又木ノ本生中生末生アリ中生ヲ佳トス、

問曰ク、播種ノ季節ハ、如何、

答テ曰ク、播種ノ時季ハ、樹子ノ標落飛散スル時ヲ適當ナリトス、然レトモ他ノ障碍アルヤ、此期ニ播キ得サル場合ニ於テハ、之ヲ貯蓄シテ春季ニ至リコレヲ播種スヘシ、水會ノ如キハ、積雪ノ地ナレハ、前年秋冬ノ間ニ播種スレハ、樹實凍返シテ萌芽力ヲ失フノ虞アレハ、春季十度暖計外播種スルヲコトス、



問曰、播種ノ道理及ヒ季期等ハ己ニ問クヲ得タリ、自然ニ  
 二 標落スルモノハ、自然ニ覆フベキ土ノ量アルヘシ、今人力  
 二 播種スルキハ、樹實ノ上ヲ覆フ土ノ量ハ、如何、  
 答テ曰ク、樹實ヲ覆フヘキ土ノ量ハ、其枝ヨリ落チテ自然土  
 二 入ルヲ以テ天然ノ量トス、然レトモ人力ヲ以テ之ヲ施ス  
 二 ハ、專テ萌芽發生ヲ要スルユニ、少シク土ヲ覆ハサルヲ  
 得ス、槍實ハ、量目輕キカ故ニ、深ク土ヲ覆フヘカラス、木曾山  
 二 テハ、凡三四分位ヲ以テ足ソリトス、  
 問曰ク、己ニ播種ヲ施ストキハ、雜草生スヘシ、拔除芟除スヘ  
 キヤ、否如何、  
 答テ曰ク、始メ坑ヲ堀ルトキ勤メテ上土ヲ下層ニ埋メ、草ノ  
 發生セサルヤウ注意シ、且樹子ヲ撒布スル故、槍敷拾本發生

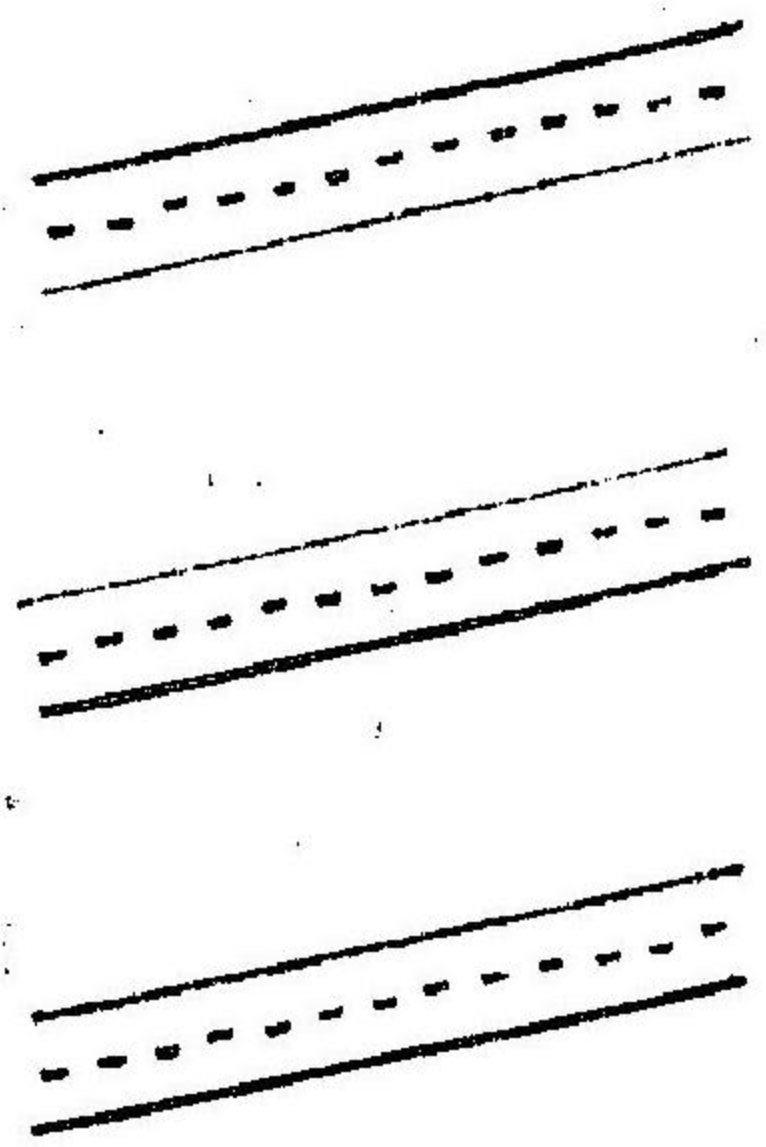
スヘシ、故ニ草ノ發生ハ、甚稀ナルモノナリ、然レトモ凡四五  
 年ヲ經テ、雜樹中ノ最良ナルモノヲ撰ミ存シ置キ、其餘ハ之  
 ヲ芟取リ、草モ亦此時ニ當リテ、芟リ取ルヘシ、  
 但コレヲ施行スルハ、五六月ヲ季トス、草ノ實ヲ結ハ其芟  
 リタル雜樹草ハ、其存スヘキ樹根ニシキオケハ、第一土地  
 ノ水氣ヲ助ク、第二朽腐シテ肥トナルナリ、  
 問曰ク、四五年ニシテ手入ヲナスコトハ、聞クコトヲ得タリ、然ル  
 コ二十年乃至三十年ニ至ルトキハ、樹本稠密ニシテ、自成長  
 ノ工合、如何アルヘキヤ、  
 答テ曰ク、元來造林ニハ、洗伐ノ法アリ、其洗伐セシ材ハ、幾分  
 カノ収益ヲ得ルモノナリ、山林家ニテ、コレ其洗伐法ハ、畧シ  
 テ云ヘハ、林中生長力劣リテ、後來良材ヲ得難シト認ムルモ

ノヲ伐ルナリ、  
 問曰ク、木曾森林ノ如キ奥山ハ、洗伐セシ材品ハ、決シテ價ナ  
 シシテ、其經費ヲ償ハサルナリ、然ルトキハ洗伐ヲ施サ、ル  
 モノカ、又ハ伐リテ山中ニ棄ツルカナリ、如何、  
 答テ曰ク、洗伐ハ、収益ヲ計算スルヲ以テ法トナスト雖、其地  
 方需用ノ有無ニヨリテ、其法ヲ異ニス、前條ノ洗伐ハ、所謂首  
 尾全備シテ、伐除シタル材品モ世用ヲ補ヒ、存スヘキ樹モ、成  
 長ヲ助クル、木數ヲ減スレハ、養分ヲニツノ益アリ、或ハ伐材  
 品ノ用ヲ缺ト雖、存置木ノ成長ヲ助クルヲ以テ、早カレ晩カ  
 レ、洗伐ヲ施サ、ルヲ得ス、然レトモ前條ノ如ク、小丸太、小角  
 山出ノ便ヲ缺クトコロハ、其始メ仕付ルトキ、洗伐伐木ノ便  
 ヲ慮リ、コレヲ疎ニ施スヘシ、

問曰ク、其距離、如何、

答曰ク、樹木ノ種類ト、土地ノ傾斜平坦ノ度ニヨリテ、差別アリ、有限幹ノモノハ、惣テ左圖ノ如シ、坪蒔モ

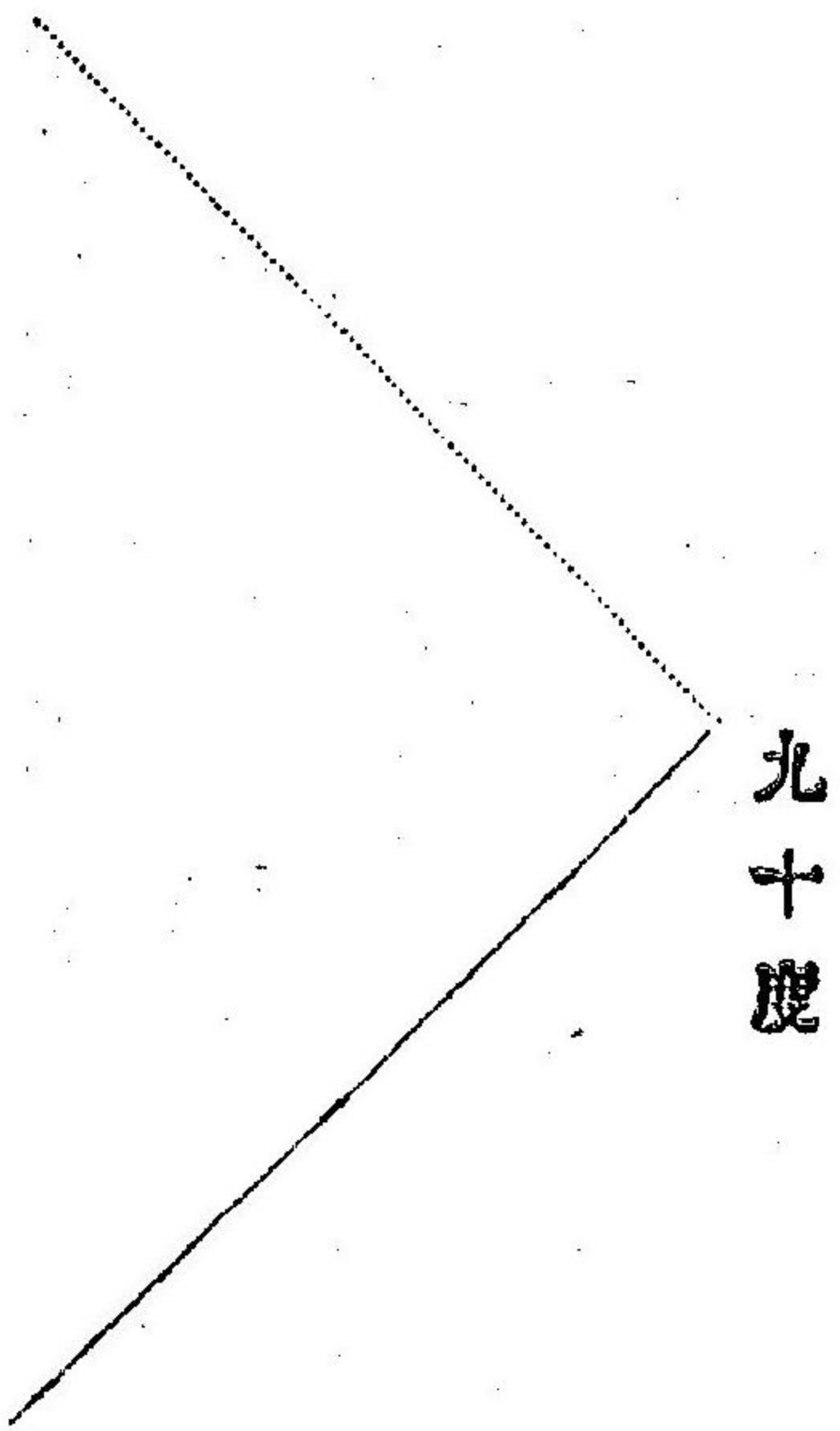
距離三四尺ヨリ六七尺ニ至ル



無限幹針葉ノモノハ、坪植ノミニシテ、其距離一メートル三  
 寸ヨリ三メートルニ至ル、木曾ノ檜ハ、二メートル以内ニ植  
 ルヲ適當ト思フナリ、尤實地ニアラサレハ、確言シ難シ、

但無限幹ト云ハ、針葉樹ヲ云フ、松、杉、檜、楫、樺、樅、桐、公孫樹等ノ類ヲ云フ、

問曰、山地傾斜平坦ノ度ハ、如何、



九十度

獨乙フイシユバツ氏傾斜度表

二度ヨリ五度マテ  
六度ヨリ拾五度マテ

サソフテ

ミツテルメーシヒ

穩傾ノ義

適宜傾ノ義

拾六度ヨリ貳拾五度マテ  
貳拾六度ヨリ三拾五度迄  
三拾六度ヨリ四拾五度迄  
四拾五度以上

チイムリヒスタイル

スタイル

セーレススタイル

イエーニ

可ナリ峻斜ノ義

峻岨ノ義

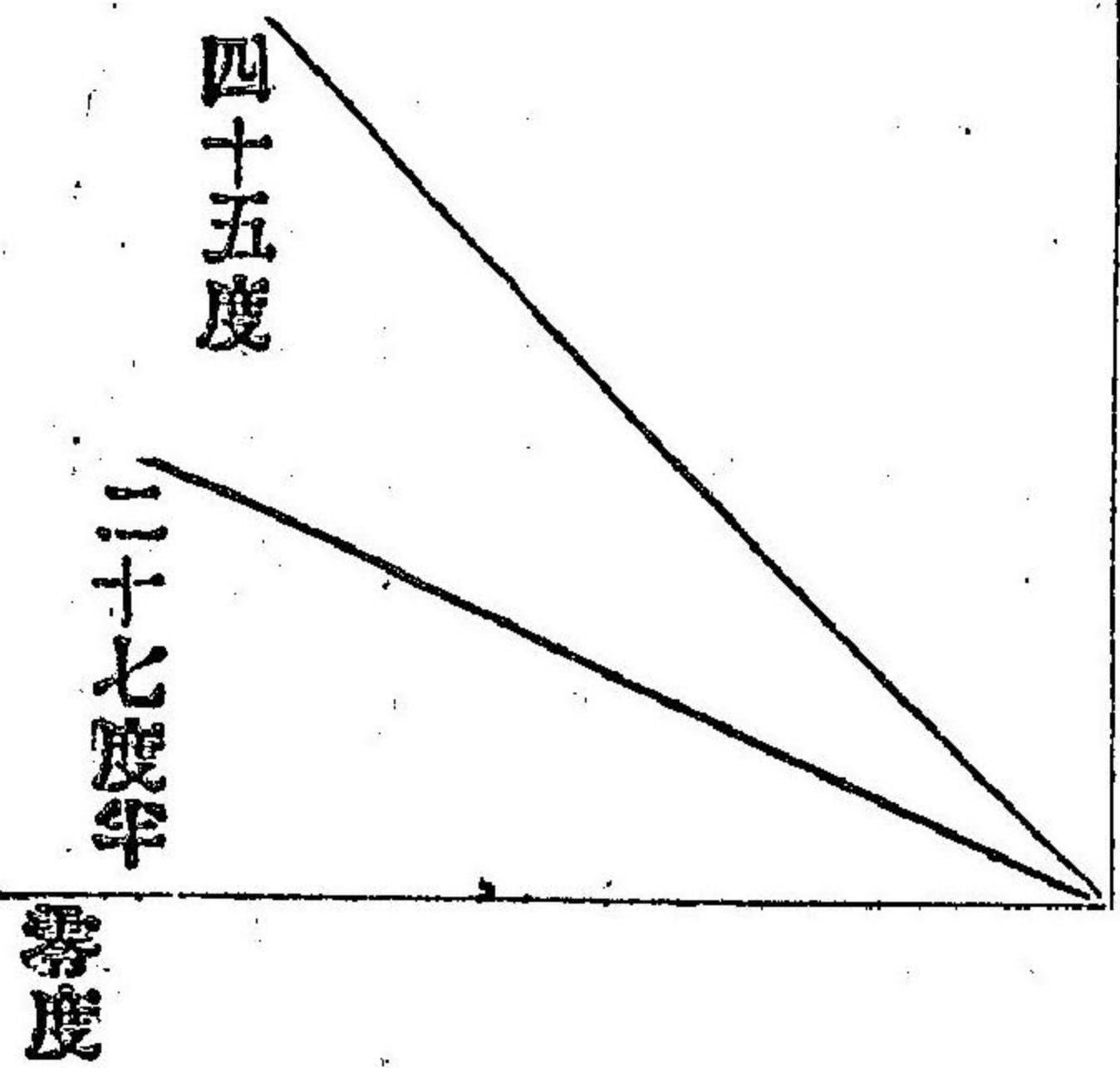
甚峻ナル義

絶峻ノ義

九十度

畢

其圖



四十五度

二十七度半

零度

右ノ中樹木ニ適當スル  
 三十五度マテ馬足ヲ通ス、人足ハ、四拾五度  
 問曰ク、傾斜平坦度、樹木ニ適スヘキ斜度ハ、已ニ聞クヲ得  
 ヲリ、傾斜度ノ國土保安利害ニ係ル詳説ヲ請フ、  
 答曰ク、二拾六度以上ノ所ハ、總テ巖石崩落、土砂流出ノコト  
 ヲ慮ラサルヲ得ス、然レトモ周圍ノ地形及森林ノ地位ニ  
 ルナリ、四拾五度以上ハ、樹木ハ、勿論草菜ト雖、伐ラサルヲ法  
 トス、然レトモ伐リテ改良ヲ施ス所アリ、學識アル人ニアラ  
 サレハ、能ハサル業ナリ、伐木其他工業ヲ施スニハ、意ヲ加フ  
 ヘキヲナリ、

明治十四年五月十九日出版御届  
同 五月廿八日出版

定價五錢

著述人

東京府平民

松野 燭

麴町區二番丁一番地

山口縣士族

山本清十

神田區旅籠町

一丁目十一番地寄留

開拓使平民

紀川直治郎

神田區旅籠町

一丁目十一番地寄留

東京府平民

松井忠兵衛

芝區柴井町十六番地

全

出版  
兼  
發兌

全